

II. 在宅介護実態調査にみる羽曳野市の現状

推進協資料 8

1. 調査の目的について

「高齢者等の適切な在宅生活の継続」や「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的としています。

2. 調査の実施について

対象者	在宅で介護を受けている要介護（要支援）者のうち、実施期間中に認定の更新や区分変更を申請した人及びその方を介護する家族等で本調査の趣旨に同意いただいた方 ※一部の施設入所者や新規申請者は対象外です。
実施期間	令和8年1月16日（金）～令和8年2月16日（月）
実施方法	郵送配布、郵送回収（回収率向上のための礼状兼督促はがきを送付）

3. 調査の回収等について

	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回答率
全体	1,182 件	758 件	64.1%	753 件	63.7%

4. 回答者の属性

単位：％

		母数	認定該当状況							
			要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
全体 (n=753)		753	19.8	18.3	18.9	17.7	9	9.3	6	1.1
性別	男性 (n=242)	242	16.1	19.4	19.4	19.4	9.1	9.1	6.2	1.2
	女性 (n=511)	511	21.5	17.8	18.6	16.8	9	9.4	5.9	1
年齢	前期高齢者 (n=72)	72	22.2	19.4	19.4	18.1	5.6	6.9	8.3	—
	後期高齢者 (n=681)	681	19.5	18.2	18.8	17.6	9.4	9.5	5.7	1.2
年齢	65～69歳 (n=27)	27	22.2	22.2	25.9	18.5	—	3.7	7.4	—
	70～74歳 (n=45)	45	22.2	17.8	15.6	17.8	8.9	8.9	8.9	—
	75～79歳 (n=123)	123	24.4	16.3	13	20.3	11.4	7.3	6.5	0.8
	80～84歳 (n=200)	200	24	20.5	19	17	8.5	7	4	—
	85歳以上 (n=358)	358	15.4	17.6	20.7	17	9.2	11.7	6.4	2

5. 調査結果のまとめ

(1) 在宅生活の限界点向上と提供体制の検討

施設等への入所・入居の検討状況については、「検討していない」と回答した人が 62.7%で最も多いものの、要介護度が高くなるにつれて施設入所の検討や申し込みが進む傾向が見られます。特に要介護3以上では「検討していない」と答えた割合が 35.0%まで低下し、他の介護度と比較して在宅生活の継続に限界を感じている層が多いことが示唆されています。世帯類型別では、単身世帯の 57.0%が「検討していない」と回答しています。介護者が不安に感じる内容を介護度別に見ると、要支援層では外出の付き添いや入浴、食事の準備といった生活支援面が中心ですが、要介護度が進むにつれて「認知症状への対応」や「夜間・日中の排泄」といった身体的・精神的負担の大きい項目が上位を占めるようになります。

(2) 仕事と介護の両立に向けた支援

今後の仕事と介護の両立については、「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した人が 54.7%と過半数を占めています。一方で、介護のために「労働時間の調整」や「休暇の取得」、「在宅勤務」といった働き方の調整を行っている人の多くも、同様に「何とか続けていける」という綱渡りの状況にあることが伺えます。仕事と介護の両立に効果がある勤務先からの支援としては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 32.5%と最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり (27.1%)」、「労働時間の柔軟な選択 (25.6%)」が続いています。

(3) 保険外サービスを中心とした地域資源の整備

在宅生活を継続するために必要と感じる支援・サービスについては、半数以上の 51.4%が「利用していない」と回答していますが、具体的なニーズとしては「外出同行 (15.5%)」や「買い物 (12.0%)」といった移動・生活支援が挙げられています。保険外サービスの実際の利用状況を世帯別に見ると、夫婦のみ世帯やその他の世帯においても、いずれの要介護度でも 4 割から 6 割程度が「利用していない」状況にあります。しかし、要介護度が高くなるにつれてや「見守り・声かけ」、「配食」といったサービスの利用割合が増加する傾向が見られ、重度化に伴い保険外の地域資源に対する依存度も高まることが示されています。

6. 調査結果の抜粋

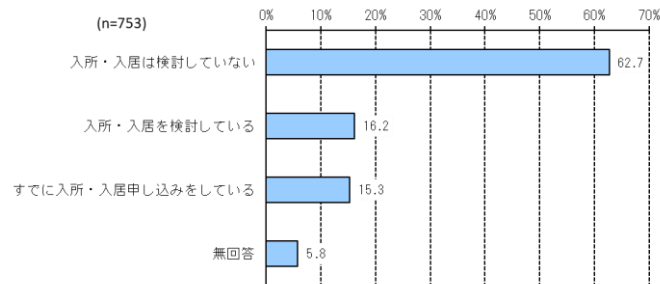
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

① 施設等への入所・入居の検討状況

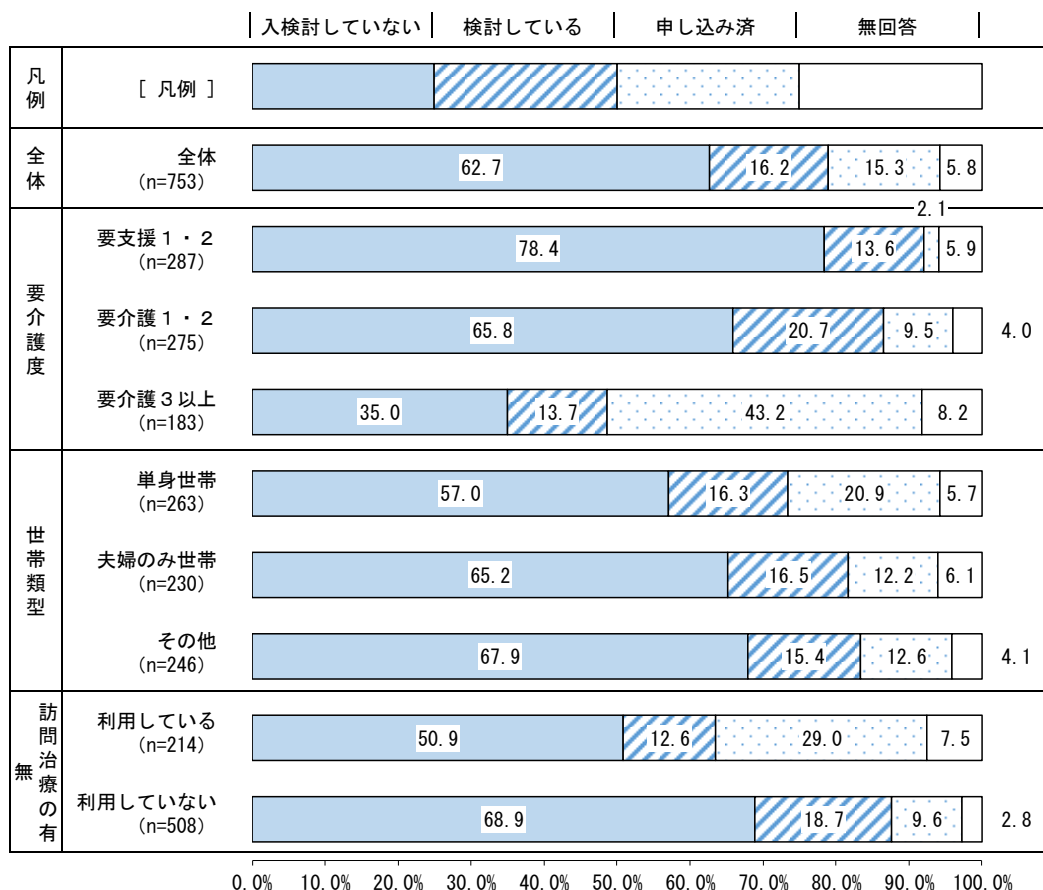
施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居は検討していない」が 62.7%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が 16.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 15.3%となっています。

要介護度別にみると、要介護3以上では「検討していない」が 35.0%となっており、他の介護度より少なくなっています。

単身世帯では、「検討していない」が 57.0%となっています。

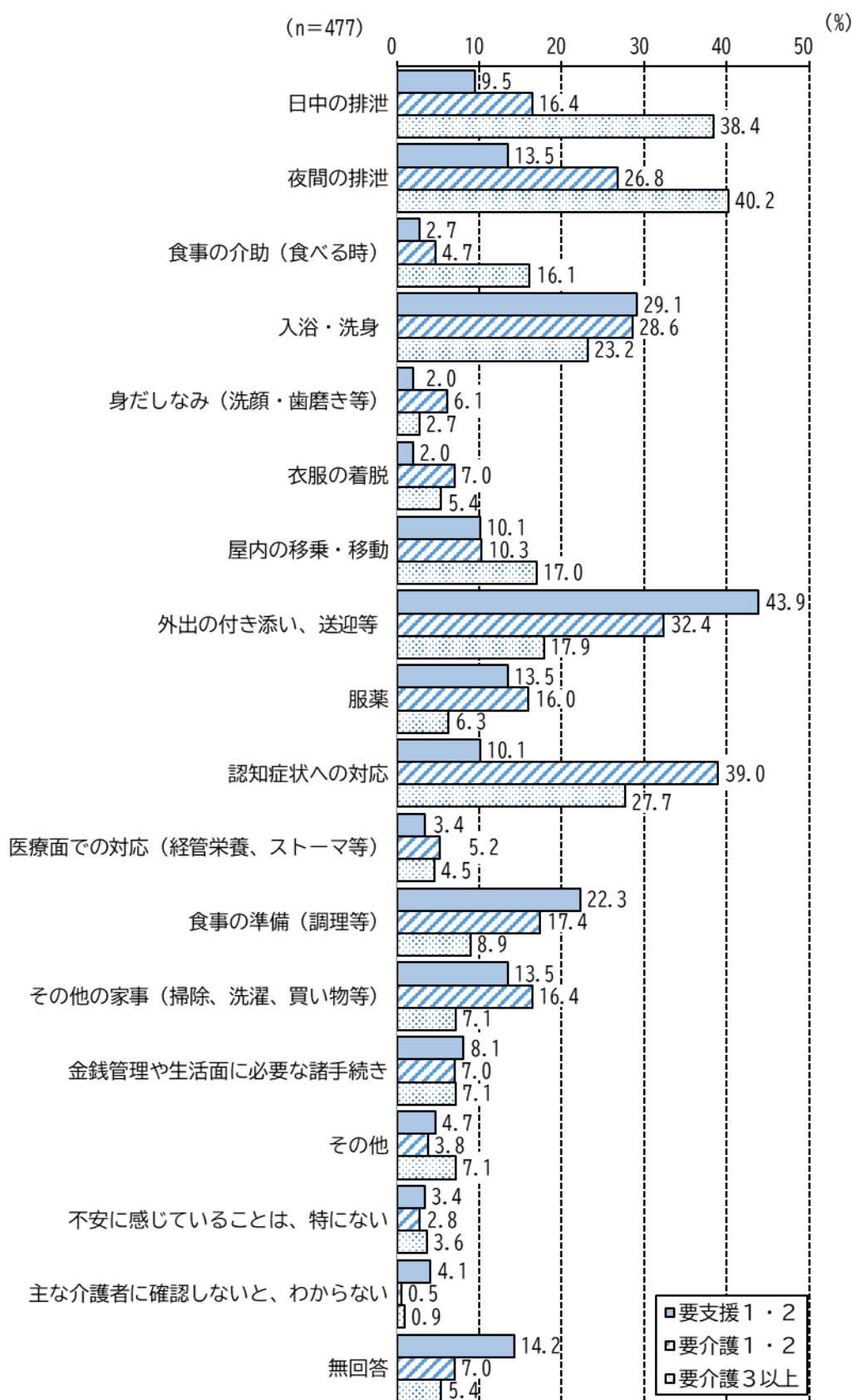


【施設等への入所・入居の検討状況】



② 介護者が不安に感じる介護（要介護度別）

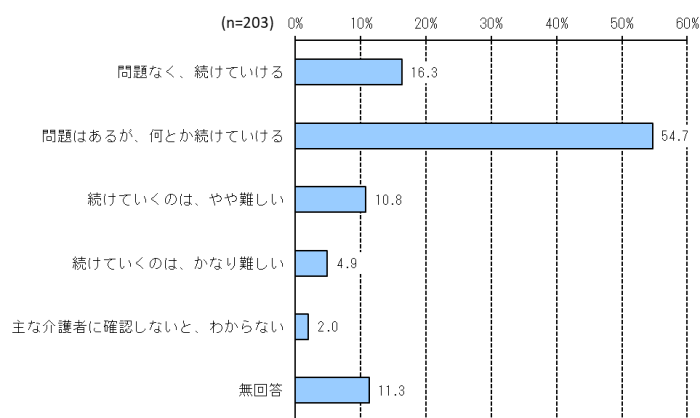
要支援１・２では「外出の付き添い、送迎等」、「入浴・洗身」、「食事の準備」が、要介護１・２では「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」、「入浴・洗身」が、要介護３以上では「夜間の排泄」、「日中の排泄」、「認知症状への対応」、が多くなっています。



(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの検討

① 今後の仕事と介護の両立

今後の仕事と介護の両立について、「問題はあるが、何とか続けていける」が54.7%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が16.3%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が10.8%となっています。

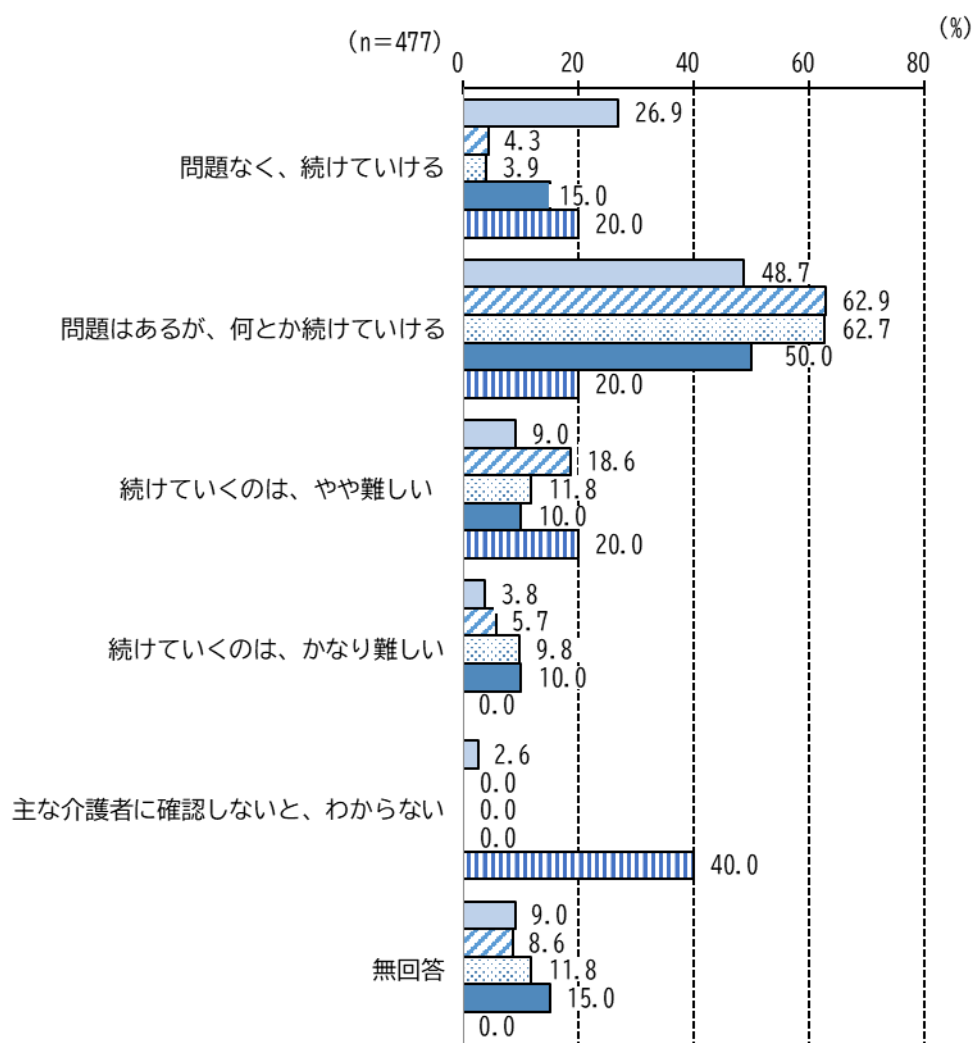


単位：％

		母数	問題なく、 続けていける	問題はあるが、 何とか続けていける	やや難しい は、	かなり 難しい は、	主な 介護者 に確認 しないと、	無 回答
全体 (n=203)		203	16.3	54.7	10.8	4.9	2.0	11.3
性別	男性 (n=44)	44	9.1	63.6	9.1	6.8	-	11.4
	女性 (n=159)	159	18.2	52.2	11.3	4.4	2.5	11.3
年齢	前期高齢者 (n=22)	22	22.7	45.5	18.2	4.5	-	9.1
	後期高齢者 (n=181)	181	15.5	55.8	9.9	5.0	2.2	11.6
年齢	65～69歳 (n=9)	9	△ 44.4	▼ 22.2	△ 22.2	-	-	11.1
	70～74歳 (n=13)	13	7.7	61.5	15.4	7.7	-	7.7
	75～79歳 (n=33)	33	▼ 6.1	60.6	9.1	6.1	3.0	15.2
	80～84歳 (n=50)	50	△ 28.0	▼ 42.0	12.0	2.0	-	16.0
	85歳以上 (n=98)	98	12.2	61.2	9.2	6.1	3.1	8.2
要介護度	要支援1・2 (n=69)	69	23.2	49.3	8.7	-	2.9	15.9
	要介護1・2 (n=88)	88	13.6	62.5	8.0	9.1	2.3	4.5
	要介護3以上 (n=46)	46	10.9	47.8	19.6	4.3	-	17.4
勤務形態	フルタイム (n=123)	123	14.6	51.2	13.0	4.1	1.6	15.4
	パートタイム (n=80)	80	18.8	60.0	7.5	6.3	2.5	5.0
	働いていない (n=0)	-	-	-	-	-	-	-
世帯類型	単身世帯 (n=76)	76	21.1	57.9	3.9	3.9	2.6	10.5
	夫婦のみ世帯 (n=42)	42	14.3	47.6	14.3	9.5	4.8	9.5
	その他 (n=84)	84	13.1	56.0	15.5	3.6	-	11.9
訪問治療の有無	利用している (n=49)	49	10.2	59.2	10.2	6.1	2.0	12.2
	利用していない (n=150)	150	17.3	53.3	11.3	4.7	2.0	11.3

②介護のための働き方の調整

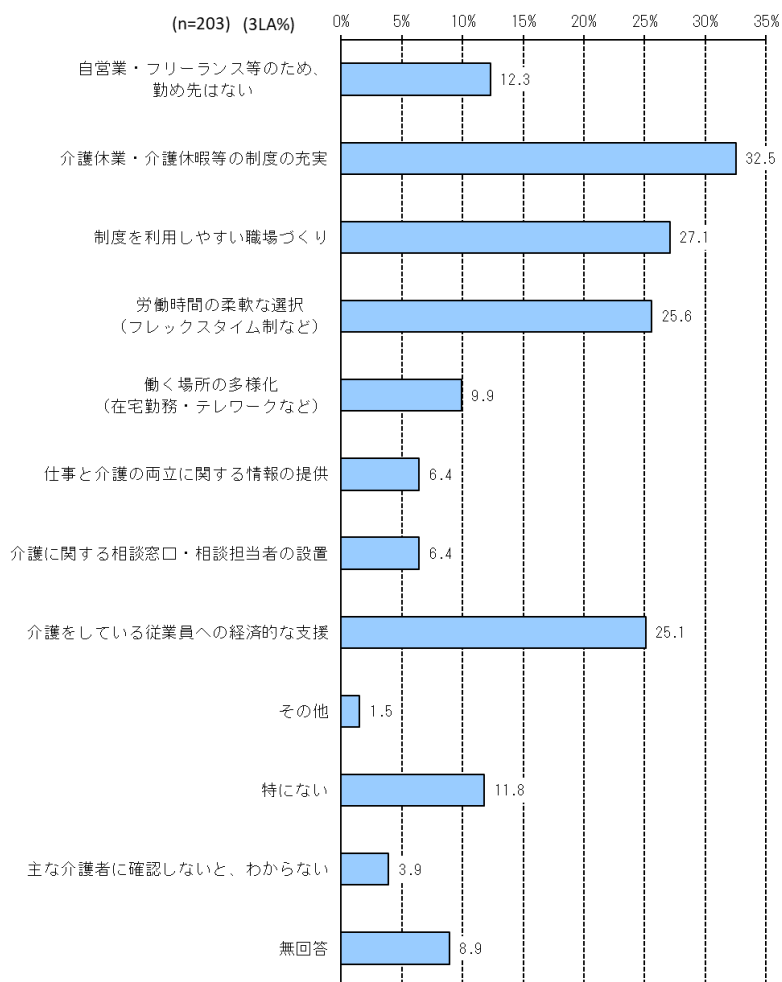
いずれも「問題はあるが、何とか続けていける」が多くなっています。



- 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている
- ▨介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
- ▤介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
- 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
- 主な介護者に確認しないと、わからない

③仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援(主なもの3項目回答)

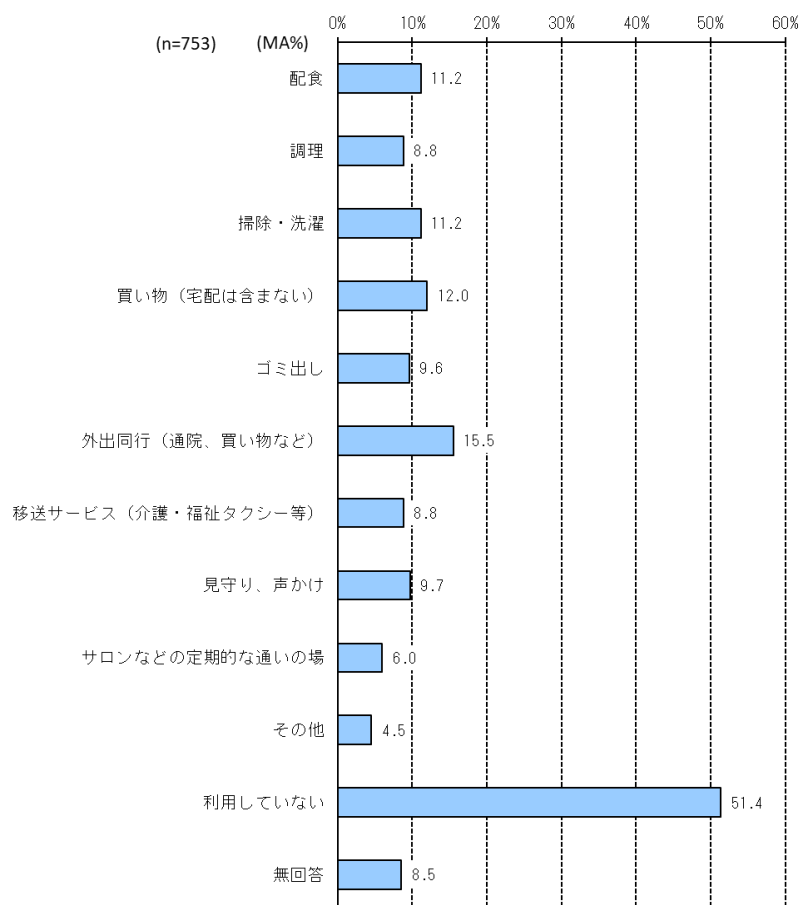
仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援について、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が32.5%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が27.1%、「労働時間の柔軟な選択」が25.6%となっています。



(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

① 在宅生活の継続に必要な支援・サービス（複数回答）

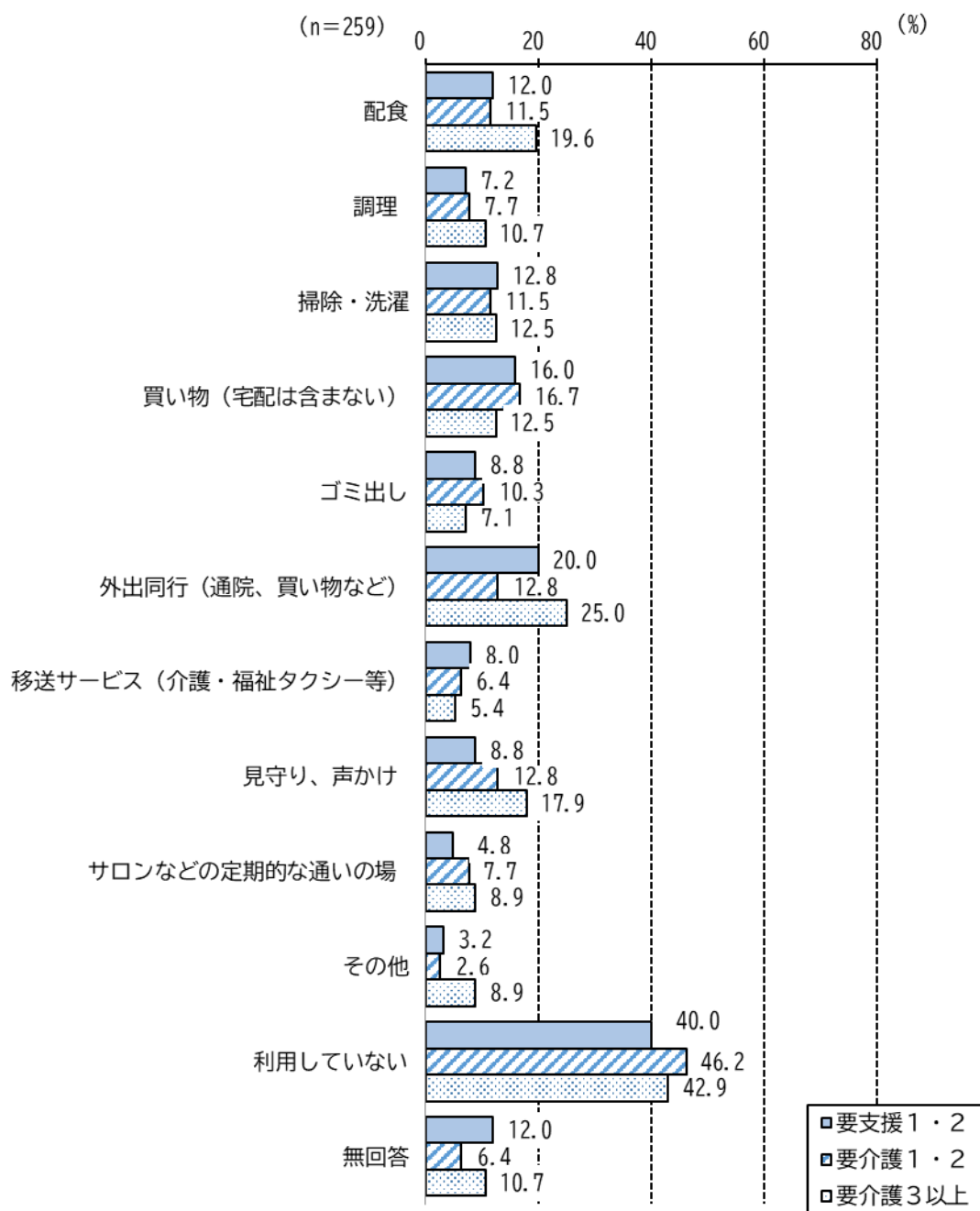
在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、「利用していない」が 51.4%で最も多く、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が 15.5%、「買い物」が 12.0%となっています。



② 保険外の支援・サービスの利用状況

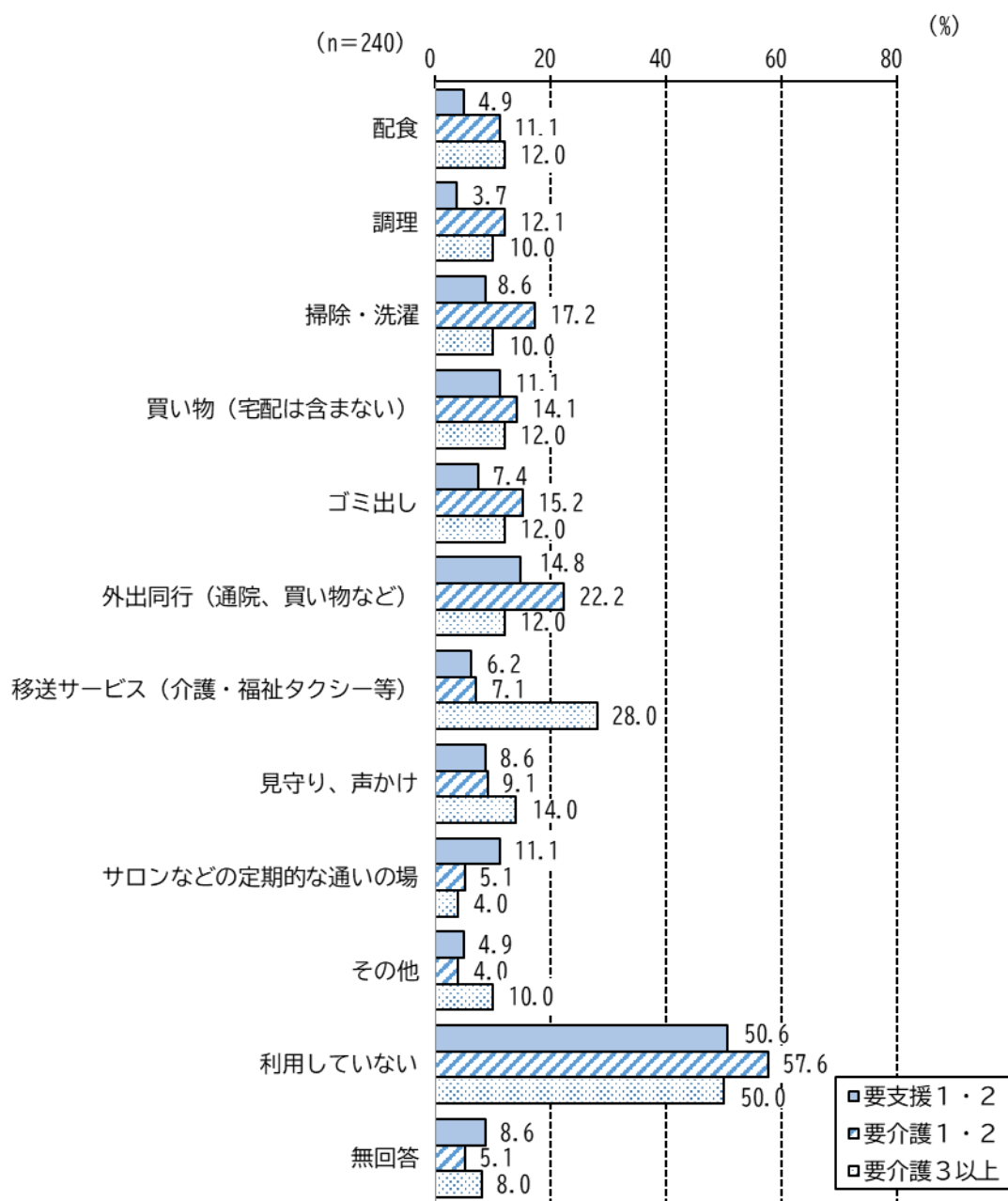
【保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】

いずれの要介護度でも「利用していない」が約4割となっています。



【保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】

要介護度が高くなるにつれて、「配食」「見守り、声かけ」の利用が多くなる傾向がみられます。いずれの要介護度でも「利用していない」が約5～6割となっています。



【保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】

要介護度が高くなるにつれて、「調理」「見守り、声かけ」の利用が多くなる傾向がみられます。いずれの要介護度でも「利用していない」が4割超えとなっています。

